

令和5年度

# 東明小だより

令和5年6月23日  
第4号



## だんだんできるようになっていく

校長 吉田 尚子

新学期から3カ月が過ぎ、学校にも新しい風がたくさん吹いています。

1年生は、入学式のあのドキドキした気持ちが、いつの間にか、お兄さん、お姉さんと一緒に遊んだり勉強したりするワクワクの毎日が変わりつつあります。学校はまさに笑顔あふれる学び舎です。

1年生は、6月に入り、国語や算数に加え、生活科の学習で2年生と一緒に「学校探検」を始めました。

先日は、その探検隊が、校長室にも来てくれました。

「校長室の探検に来ました。よろしくお願いします。」と、元気よく1人ずつ挨拶をして校長室に入ります。そんな時は、まず2年生が自分でお見本を見せてから、1年生に「ちゃんと挨拶してね。」と小さな声で教えます。教えられた1年生は、2年生と同じように緊張しながら挨拶をして校長室に入ってきます。つい3ヶ月前までは、1年生だった2年生ですが、自分たちが先輩たちにやってもらったように、1年生に色々と教えているのです。その姿を見ているだけで、ほほえましく温かい気持ちになります。

そしていよいよ探検が始まります。「金庫の秘密は、わかるかな？」と聞くと、「鍵がある。泥棒に盗まれないため?」「たくさんお金が入っているの?いくらくらい?」等、次々に質問が飛び交います。「この金庫は、大切な書類が火事にあっても燃えないようにとても頑丈にできているんだよ。」と、私が説明すると、すぐに子どもたちは、「すごい!さわってもいい?」と目をきらきら輝かせ興味を示しました。

それ以外にも、「ソファー、校旗、昔の学校の写真・・・」校長室のいくつかの秘密を見つけ、その1つ1つを触ったり、じっとのぞき込んだりして、「大きいな。すごい!」「ソファーは、すごくふかふかだよ。」と、感動の声をあげました。

子どもたちは学校という学び舎で、6年間でいったいどれだけのことを知り、成長していくのでしょうか。そして、「できなかったこと」をいくつ「できるようにして」卒業するのでしょうか。改めて、学校という学び舎の役割がここにあることを、子どもたちから教えてもらう毎日です。

今年1年間、204名の児童の「できないこと」をいくつ「できること」にかえていくか、私たちの使命はここにあると思っています。

